

a la carte.

2025.7

あらかると

462



あさか野養蜂場

あさか野養蜂場

福島県のほぼ中央に位置する郡山市。東北を代表する商工都市ですが、西に奥羽山脈、北に安達太良山、東には阿武隈高地と豊かな自然に囲まれています。その美しい自然景観と恵みに感謝しながら、養蜂を始めて3年目になります。



ゼロからの養蜂プロジェクト

私たちは養蜂に関して知識もスキルもない全くのゼロからプロジェクトがスタート。事業を始めるまでにいくつもの壁にぶつかりました。

最初の壁は養蜂場所の選定です。最初に挙げた候補地は近隣に既に養蜂場があるため断念しました。みつばちの行動範囲は半径2kmと言われており、その範囲内に既に養蜂場がある場合、蜜源植物の取り合いを避けるために新規参入が難しいケースがあります。次に候補に挙げた場所はかつて畑だった土地と雑木林の間の場所。後継者がおらず遊休地になっていたところを貸していただけることになり、ようやく拠点が決まりました。とはいえ、そこは1mを超える雑草が生え放題の荒地。草刈りをして整地するところから始まりました。

養蜂について無知なため、県内の養蜂場をお願いして数名が研修に行き、学ぶことに。突然のお願いにもかかわらず、何の繋がりも無い私たちを手取り足取り指導してくださったことを心から感謝しています。現在は近隣の経験豊富な養蜂家の師匠に事あるごとに教えていただき、養蜂技術を身につけています。



みつばちを守る

みつばちは4月から11月まで元気に活動しています。冬ごりの時期(12月～3月)を除いた約8か月間、私たちはほぼ毎週巣箱を開けて「内検」をします。内検では主に、女王蜂の存在確認、新卵、蜂児の育成確認、王台の有無の確認、巣箱内の掃除などを行います。

夏～秋にかけては、これらの作業に加え「スズメバチ駆除」が欠かせません。キイロスズメバチやオオスズメバチは、みつばちを捕食したり、巣を襲うなどみつばちにとって大敵です。巣箱に侵入されてしまうと、みつばち達は女王蜂と巣を守ろうと必死に戦いますが、全滅してしまうこともあります。そのため夏から秋の時期は交代で毎日養蜂場へ通い、スズメバチ駆除を行います。酷暑の中、虫取り網で捕獲したり、捕獲器や粘着シートを使用して作業をします。1日に処分する数は100匹に上ることもあります。



今年のみつばちは、巣枠1枚分ほどもあるムダ巣を枠外に作るなど例年にも増してとても活発な働き蜂達です。このみつばち達を守るために、暑さや時には危険もある中で私たちは日々養蜂作業を続けています。

今年のみつばちは、巣枠1枚分ほどもあるムダ巣を枠外に作るなど例年にも増してとても活発な働き蜂達です。このみつばち達を守るために、暑さや時には危険もある中で私たちは日々養蜂作業を続けています。

みつばちからの贈りもの

みつばちは季節ごとに咲く様々な花から蜜を集めるため、花の種類によって蜜の味や香りが変わります。春一番に採れるのが「さくら蜜」です。山桜が咲き始めて1週間後くらいから採れるようになります。採蜜期間が短いので採れる量も限られる貴重な蜜です。続いて採れるのが藤の花や菜の花などの「春の百花蜜」。その次が定番の「アカシア蜜」です。初夏の時期に採れる透き通った綺麗な蜜で、クセのない上品な甘さが特徴です。

暑さに弱いみつばちは真夏はあまり活動的ではなくなります。蜜集めを小休止した後、涼しくなってきた活動を再開して採れるのが「秋の百花蜜」です。くず・萩などの花の蜜を集めたもので、黄色いセイタカアワダチソウが咲く前まで採ることができます。

みつばち1匹が一生のうち集めるはちみつのはちみつは小さじ1杯ほどといわれています。その貴重なはちみつを無駄にすることが無いよう、蜜しぼりから瓶詰めまでの工程を一つ一つ丁寧に手作業で行っています。あさか野養蜂場のはちみつには、みつばち達と私たちの想いがぎゅっと詰まっています。

今年は、春に採れた「春の百花蜜」「さくら蜜」「アカシア蜜」と、去年の「秋の百花蜜」の4種類のはちみつを持って、各地のマルシェやイベントに伺おうと思っています。7月は「道の駅ふくしま OH!肉まつり」(7/21祝)に参加させていただきます。また、県内の11の店舗様でもお取り扱いいただいております。「非加熱」「天然成分100%」の「純粋はちみつ」ぜひご賞味ください!



あさか野養蜂場

〒963-0724
郡山市田村町上行合字北川田26-3
TEL.024-944-8400

Instagram



オンラインストア

